人類救済のための御浄霊

黎明
発行所
京都市左京区吉田神楽岡町3
有限会社洛東社
郵便番号606
電(771)2022番

ごあいさつ

会長　多田　光行

御生誕祭おめでとうございます。日々賜わりました絶大なる御守護・御恵みに対しまして心より感謝のお祈りを捧げさせていただきますと共に、これらの御神恩になに一つお報いさせていただいて居りませんことを深くお詫び申し上げます。

「救い主・明主様への純粋な信仰をつらぬかせていただくため」また「救い主・明主様の御教えに基づく信仰を守らせていただくため」に新しい第一歩をふみ出させていただきましてより、私共は八年目を迎えるわけであります。この七年間に、教会に賜わりました御守護並びに私共一人一人にいただきました御恵みの一つ一つをふりかえらせていただきました時、神様の大愛の御心に対しまして如何に感謝の意を表わさせていただきましたらよいかその言葉を見出せないのであります。かくも数限りない御守護を賜わりながら、全く御恩報じをさせていただかず、神様よりお与えいただきました時間をただ無為に過ごしてきた私自身、本当に申し訳けない気持で一杯であります。身勝手なお願いではありますが、もしお許しいただけますならば、少しでもこの償いをさせていただけますよう伏してお願い申し上げる次第であります。

今後、益々重大な時期を迎えるにあたりまして、私共は、自分自身の信仰姿勢を今一度ふりかえらせていただきたいと存じます。

明主様こそ、**「天の時来って絶対力を与えられ、其の行使による人類救済の大使命を帯びて出顕」**された〝救世主〟であられると言う揺ぎない信仰を確立させていただくことが、私共の信仰にとりまして最も根本的なことであると存じます。

そして、明主様の御教え一言一句が**「主神直接の啓示」**による御救いの御言葉であり、たとえいかに些細なことであっても、御言葉をすべての基準とさせていただく姿勢を守ることが、私共の信仰の最も基本的なあり方でなければならないと思います。これまでに色々な個々のことにつきましては、私の至らぬために神様の御心にそわせていただけず、皆様に御迷惑をおかけしてきたことも多々ありましたが、その点心より申し訳なく存じて居ります。

私共はこの七年間に、以上のただ一点のみを目標にひたすら進ませていただいてまいりました。この信仰の基本を守らせていただいてこそ始めて、私共は明主様の人類救済、地上天国建設の御神業の一端をお手伝いさせていただくお許しをいただけるものと固く信じさせていただいているわけであります。

黎明教会の信徒の方がお取次ぎさせていただく〝御教え〟は、いついかなる場合でも常に誤まりない正しいお取次ぎでありたいと存じます。しかも、これは決して表面的な字句にとらわれるのではなく、御教えの一言一句を神様の御救いのお言葉として謙虚に魂にいただいて、その中にこめられた神様の御心を正しく掴ませていただき、それをその時の状況にあわせて、誤りなくお取次ぎさせていただくことであると思います。私共の至らぬために、御教えを自分勝手にゆがめたり、誤った解釈をして、更にそれを自己流の表現でお取次ぎしたために、今までに如何に多くの方々が御救いの機会をのがしてこられたかを考えました時に、私共は深くお詫びしなければならないと存じます。

〝浄霊〟のお取次ぎに致しましても、どれだけ明主様に御教えいただいた通りの正しいお取次ぎをさせていただいていたかを考えました時に、深く反省しなければならないと思います。

救い主・明主様が、私共の数限りない罪をお許し下さり、一人でも多くの人間を永遠に御救い下さらんがために、お表わし下さったのが御浄霊の御力であります。本来ならば到底お許しいただける筈のない罪深き私共が、大愛の御心の発露として、

救い主・明主様の御救いの御業のお手伝いをさせていただくことが出来るのであります。このことを忘れて、いいかげんな惰性に流れた御取次ぎをしたために、御浄霊の真の意味・その中にこめられている御神意をお伝えすることはおろか、御浄霊が単なる病気治しか、まじないの一種位にしか受けとられていないことがもしあるとすれば、これこそ本当に申し訳けないことであります。経験を多くもたしていただくことは勿論大切なことでありますが、御教えの絶えざる真摯な拝読・勉強をゆめおろそかにしてはならないと存じます。

明主様はかって

「御浄霊のお取次ぎは誰にでも許し、又その方法を教えてあげましょう。しかし、それらを覚えたのみではなく、世の人を救うという大信念がなくてはいけない。世界人類を救う、大光明世界建設のために力をつくすという高い意志がなくてはいけない。そういう高い意志がないと間違いが起る」(10・5・1)と仰っしゃったそうであります。ただ自分若しくは自分の周囲の者だけが救っていただけばよい、世の中の人々のことは考えないという自己愛信仰に陥ったのでは、罪深き私共すべてに御救いの御教えを与え、御浄霊のお取次ぎをお許し下さった神様の御心に背くことになってしまうでありましょう。今までにもお取次ぎさせていただいた御教えでありますが、

「信仰に入るってのは、人を救う方法を教わるんですから、教修を受けてから多くの人を助けて、それで本当の御利益も頂けるんですよ。教修を受けたってのはたゞ門に入っただけですからね、それから玄関、更に奥の御座敷にまで行かねば嘘ですよ」(光9・5)

「入信するって言うのは人を救う力と、救うやり方を教わるんですからね。丁度学校へ入って学問をするようなもんです。だからそれを生かさなくちゃ駄目ですよ。そして、それを活用した人を神様は御守護なさるんですよ。神様は一人でも多く助けようとなさるんですからね。人を救わなくちゃ駄目ですよ。それでなくちゃあ生存の価値がありませんからね。御守護だっていただけませんよ。」(光7・6)と、お説き下さっております。

しかも、今までの宗教などで有り勝ちであったように、難行苦行など苦しんでやらなければならないことは何一つ仰っしゃっておられないのであります。

「神様は難しい無理な事は仰っしゃらぬ。喜んで愉快に出来ることしかやらされぬ。

今まで世界の凡ゆる大仕事など、皆非常な苦心惨澹した。今度の仕事はそうではない。苦心惨澹したら出来ない。ボンヤリしてブラブラしていても出来ぬ。例えば、飯を食うにも茶椀と箸をとる位の事はしなければならぬ。それだけの手順は尽さなければならぬ。病気治しにしても、御祈禱加持で汗水垂してやるんですが、御浄霊では楽に出来る。」(10・11・11)

「議論や理窟では、神様の御趣意と違うから、顕著な御神徳のあった時は、遠慮なく話していただきたいと思います。折角の御神徳のあったのを蔵い込んでおってはつまりませぬ。いただいた御神徳はどしどし発表していただきたい。それがやがて神様へ感謝の意味になり、お話するのをなれない、極りのわるい方は、先生か世話人の方に代って話してもらえばいいのであります。お蔭は取り放しにしないで、沢山の人に別ける。皆に分配してあげる。そうすると後どしどし御神徳をいただけるわけであります。」(10・5・11)

明主様は、私共が誠の気持さえあれば、誰でもが容易にお救いいただける力と方法をお与え下さったのであります。人間の頭で考え出した難しい理窟や議論では到底人をお救いすることは出来ないのであります。又私共がいただいております数々の御守護は決して私共だけにいただいたものではなく、神様が世の中のすべての人々に表わされたものであり、それらの奇蹟を通じて多くの人々の魂を目覚めさせ神様の御心にふれさせていただくためであることをお説き下さっているのであります。

ここで私共が注意しなければならないと思いますことは、無意識の中に自分が救われたいために御用させていただくという自己愛信仰に陥るおそれが多分にあることであります。かって、明主様は次のようにお説き下さっております。

「自分が救われようという事は捨て、多くの人を救わなければ、とても可哀想で見て居られないという事を、本人が始終思って念願するのです。そういうのが本当の信仰です。ところが自分が救われよう救われようとしているのですが、それは自己愛ですから、そういうのは神様はあまり御守護されないのです。」(教21・59)

「神様は非常に和らかくて厳肅で、沢山な人を呼び寄せては、一人も残らずお試しになり、すぐりにすぐりこの人はという人だけ残し、そういう人達で固めて建設されるので、実にその点は大磐石で、ただパッと拡げない。世間ではよく形だけみせるようにするが、こういう行り方は非常に神様は嫌われる。場当りのいい或一時的の仕事などはなさらない。要するに真実で飾り気のない事、人間のように衒いも何もない。本当のお試しとは、自己というものを全然みない。本当に世界人類を救わなければならぬという止むにやまれぬ状、また此の世の中の状態をみて、実に哀れだ、可哀相だ、見てはおれぬ、然し人間の力ではどうする事も出来ぬ、然し神様が神力を揮われるにつき、その一部にも加えてもらって、そして力限りやらして貰うというそれだけ

以下二面へ続く

明主様御真筆

大乗信仰の確立

辰巳　健二

一面からの続き

で、そこに名誉心などがあると、反対の結果になる。」更に、お釈迦様の弟子の目連尊者の例をひかれて、

「母が地獄で苦しんでいるのが見えるので、どうか助けようと思っても助からぬ。他の人はいくらでも助かる。で、お釈迦様に、お母さんを出そうと思うが、どうしたら地獄から出せるかと聞くと、お前のお母さんはお前が忘れればいいといわれた。そこで考えた結果、はっと思った。

俺は天下万民を救う使命によって働いているのに、自分の近親の者、親の事ばかり思ったため救えなかった。大変な間違いをした。第一に天下万民を救わなければならぬと、それからは母のことも忘れ、一切衆生を救いのため活動して、一年経って地獄を覗いてみると、もう地獄には母はいなかったというのであります。自分を良くしたいと自分だけよくしようとすると、先ずそうなさなければならぬ。人をよくしよう、人を助けようとする時に自分はよくなる。

信仰の妙諦はここだけなんであります。」(10・8・11)

明主様は、ここで親をないがしろにしてもよいと仰っしゃっているのでないことは勿論であります。親の真の幸福を願うならば、目先のことばかりを考えないで、私共が世のため人のためにつくし、神様から自分にお与えいただいた使命を十分に果すべく努力することが最も大切であることをお説き下さっているのであります。

神様は一人でも多くの人間を永遠にお救い下さらんとしておられるわけでありますが、私共が目前の一時的な幸せにのみとらわれがちなため、真の幸福を掴ませていただけないわけであります。私自身このような御教えをお取次ぎさせていただく資格は全くないのであります。しかし、今までに神様より賜わりました絶大な御守護に対しまして、わずかでも御報いさせていただけますよう、又ここにお取次ぎさせていただきました神様の御心に少しでもそわせていただけますよう全身全霊をもって努力してまいりたいと存じます。

今年こそ、黎明教会が神様よりお許しいただきました御使命を十分に誤まりなく全うさせていただくために、私共は固く手をとりあって、助けあいながら夫々に与えられました御用の一つ一つにすべてをうちこませていただくことをお誓い申し上げます。そして

明主様の御救いによって全世界の一人でも多くの方々が、一日も早く永遠の幸福をお許しいただかれますことを皆様と共に心よりお祈り申し上げたいと存じます。

御生誕祭をひかえお祝い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたりまして今日までの私共の信仰の不徹底をお詫び申し上げ、それにもかかわらず絶えず御守護を頂いて来ましたことを感謝申し上げて、来る今年こそは明主様の御心に適った信仰を貫かせていただけますようにと祈願いたすものでございます。

明主様の御心に適う信仰とは一体どういう信仰であるか、ということについてきまして明主様の御教えをまず第一に御理解させていただきたいと思います。それが明主様の御教えは、大乗信仰か小乗信仰についてお説きになったものでございます。

『小乗信仰と大乗信仰の違いは小乗信仰は自分が救われようとするのです。自分はどうでもよい、世の中の苦しんでいるこの人達を救わなければならないというのが大乗信仰です。だから自分が救われようという事は捨てて、多くの人を救わなければ、とても可哀想で見て居られないという事を、本人が始終思って念願するのです。そういうのが本当の信仰です。ところが自分が救われようと救われようとしているのですが、それは自己愛ですから、そういうのは神様はあまり御守護されないのです。』(昭21・58～59)

この御教えを私は毎日反復して拝誦させていただいております。第一人が良いとか悪いという事は分るわけはないのです。

さて、

『本当の信仰』、大乗信仰とは、『自分が救われようという事は捨てて、多くの人を救わなければ、とても可哀想で見て居られないという事は本当の信仰の至らなさに唯々恐じ入るばかりで、明主様に対し謝り申し訳ない気持で一杯になります。

さて、

明主様はこの御教えの中で大乗信仰こそ真の信仰であることを御説き下さり、そして大乗信仰について三つの点を指摘してお教え下さっておられます。

第一の点は、大乗信仰とは自己愛を捨て利他愛、世界人類愛に燃える信仰であることをお説き下さっておられることでございます。

『小乗信仰と大乗信仰の違いは小乗信仰は自分が救われようとするのです。自分はどうでもよい、世の中の苦しんでいるこの人達を救わなければならないというのが大乗信仰です。だから自分が救われようという事は捨てて、多くの人を救わなければ、とても可哀想で見て居られないという事を、本人が始終思って念願するのです。そういうのが本当の信仰です。ところが自分が救われようと救われようとしているのですが、それは自己愛ですから、そういうのは神様はあまり御守護されないのです。』(昭21・58～59)

この御教えを私は毎日反復して拝誦させていただいております。第一人が良いとか悪いという事は分るわけはないのです。

『本当の信仰』、大乗信仰とは、『自分が救われようという事は捨てて、多くの人を救わなければ、とても可哀想で見て居られないという事は本当の信仰の至らなさに唯々恐じ入るばかりで、明主様に対し謝り申し訳ない気持で一杯になります。

さて、

明主様はこの御教えの中で大乗信仰こそ真の信仰であることを御説き下さり、そして大乗信仰について三つの点を指摘してお教え下さっておられます。

第一の点は、大乗信仰とは自己愛を捨て利他愛、世界人類愛に燃える信仰であることをお説き下さっておられることでございます。

その反面浄化の度も増し、病にまた経済難など頻々の争い事で、目を覆わんばかりの惨事も続出し、飛ぶ鳥さえも落胆に陥れ、今やその限界の高まりは鎮(しず)まりを知らずの浄化の様は、思はず衿(えり)を正す思いの緊迫感でございます。

それら悉(ことごと)くは対岸にて、御用に尽くさせていただかなければと存じ、新しい年を迎えまして、御用に尽くさせていただいて、今年は、眠れた分は眠り足り

行きずりの方にもお話を

課せられた使命の重大さ痛感

大阪布教所長　谷　よね子

救い主・明主様の御生誕祭おめでとうございます。

明主様の九十四回目の御生誕祭を迎えさせていただきましたことは誠に大きな喜びでございます。

日々数限りなき御守護をいただいている私共は御神恩に対し心から感謝申し上げさせていただきました。その御恵みの万分の一の御報恩の御用もさせていただけないことを、深くお詫び申し上げ、新しき年に尚一層の御用のお許しを願はらんことを衷心よりお祈り申し上げさせていただきました。

本年は教会独立七年目を迎えさせていただきますが、会員先生より、年々と重要になって来るとお教えいただき、信徒の使命について、再三お導きいただいております。

明主様は『御用に入るってのは、人を救う方法を教はるんですから』と仰せられておられます。入信させていただいた私共は、神様直接の御用のお許しを頂いたのであります。それは同にもかえがたい御恵みをいただいたのでございますが、とかく、我が身のうわべの幸せを求める御信仰になり、まことに恐なことと存じます。

今年こそ自己の向上から出発させていただき、存じております。昨年を省（かえり）みて、行き届（とど）かぬ所（ところ）となく、神様の深いお計いのあいます。早くから

救い主・明主様の御生誕祭はされましたことを一部の人だけが存じ上げ、どこに行っても無辺を見ても

明主様の事を何も存じ上げていない人ばかりで、御用の意義に申し訳ないなんて一杯でございます。日々絶大な御守護と御恵みを頂く多大な御神恩に感謝より深く御礼申し上げます。併せて御神恩の万分の一のお報いも許されないなんて恥ずかしい事をひれ伏してわび奉り申し上げます。今年は教会独立七年をお迎えさせていただきまして年々重要な時期が迫って参りますだけに、嬉い

救い主・明主様のお誕生日はされましたことを一部の人だけが存じ上げ、どこに行っても無辺を見ても

明主様の事を何も存じ上げていない人ばかりで、御用の意義に申し訳ないなんて一杯でございます。昨年を省（かえり）みて、行き届（とど）かぬ所（ところ）となく、神様の深いお計いのあいます。早くから

明主様を存じ上げさせていただいております私共が一秒たりとも怠慢して何かできる事をさせていただかなければ余りにももったいない御恵みでございます。

明主様の御生誕祭はされましたことは、それでも神の大愛はお救い下さらんと種々の奇蹟をおなさせさっております事とは

救い主・明主様の御生誕祭おめでとうございます。

明主様の九十四回目の御生誕祭を迎えさせていただきました。その御恵みの万分の一の御報恩の御用もさせていただけないことを、深くお詫び申し上げ、新しき年に尚一層の御用のお許しを願はらんことを衷心よりお祈り申し上げさせていただきました。

昭和五十一年三月ごろ、鶴巻の中で私の向い側に座っておられた方でございますが、黒目が弟さんと間違われ、どう見ても視力があまり無いように思いましたので、声をかけさせていただきました。その方（福田きんの中されますことは、小さいころから（約四十年前）トラホームでいろいろな手当をされたそうですが、昭和三十一年ごろからある病院に勤務されることになり、そのために毎日医療を受けておられましたが、三十五年ごろからだんだん目が見えなくなり手術をされ、三十九年に二度目の手術をされ、最初程は見えず、四十二年に他の病院で三度目の手術をされたそうですが、間もなく見えなくなり、お医者さんからは、貴女の目は治らないと断わられ、御主人様は四十一年に他界され、失明のどん底に追い込まれ、ただして下さるであろうかと思い、お祈りしておられるそうで、本当にお気の毒に思いました。こういうガ（そ）お救いいただかねばと思い、神様のお話をさせていただきました。

福田さんの一番近くの隣者さん（中田さん）を紹介させていただきました。御浄霊をお取り次ぎさせていただく中田さんも、御浄霊をいただく福田さんも、このような難病を神様は約

月ぐらいになりますが、弟さんのものが見えるようになってこられました。この長年の難病にもいとも簡単に御守護いただかれました。もしも

明主様のお救いをいただかれなかったら、生涯を暗く苦しい毎日に終わったのではないかと思いますと、少しお話をさせていただいただけで、こんな程素晴しい明るい人生に変えていただかれることの余りにも絶大なる尊い御神恵に感涙したのであります。（福田様のおかげ話は四頁に掲載）

もう一人の方は昨年十二月十八日、私は世話人反省会に出席させていただくため鶴巻に行きました所のことでございます。

ひざが大変はれて、なまなましい打撲の跡形の一杯ある方がおられまして、思わず目を背けさせていただきました。その方は二年程前から、リューマチのようになり、いろいろと医療を受けられましたそうですが、だんだん悪化してゆくので、お話を勧められ、一気持のせいか、少し良くなったように思う」などとの話をお聞いたり、また私の方は神様のお話をさせていただいたりしていました。私もこれ以上お話が長引いて反省会に遅刻してはならないと思い、お先に失礼しました。

明主様本当に有難うございました。今年は、旧に倍して御神業の一翼にお使いいただけますようにお願い申し上げます。

絶えざる研鑽と御恩報じ

北白川布教所長　馬瀬　寿々子

御用のあり方を気づかせていただいております私共が一秒たりとも怠慢して何かできる事をさせていただかなければ余りにももったいない御恵みでございます。

明主様の御生誕祭はされましたことは、それでも神の大愛はお救い下さらんと種々の奇蹟をおなさせさっております事とは

明主様の御生誕祭はされましたことは、それでも神の大愛はお救い下さらんと種々の奇蹟をおなさせさっております事とは

救い主・明主様の御生誕祭おめでとうございます。

明主様の九十四回目の御生誕祭を迎えさせていただきました。その御恵みの万分の一の御報恩の御用もさせていただけないことを、深くお詫び申し上げ、新しき年に尚一層の御用のお許しを願はらんことを衷心よりお祈り申し上げさせていただきました。

昭和五十一年三月ごろ、鶴巻の中で私の向い側に座っておられた方でございますが、黒目が弟さんと間違われ、どう見ても視力があまり無いように思いましたので、声をかけさせていただきました。その方（福田きんの中されますことは、小さいころから（約四十年前）トラホームでいろいろな手当をされたそうですが、昭和三十一年ごろからある病院に勤務されることになり、そのために毎日医療を受けておられましたが、三十五年ごろからだんだん目が見えなくなり手術をされ、三十九年に二度目の手術をされ、最初程は見えず、四十二年に他の病院で三度目の手術をされたそうですが、間もなく見えなくなり、お医者さんからは、貴女の目は治らないと断わられ、御主人様は四十一年に他界され、失明のどん底に追い込まれ、ただして下さるであろうかと思い、お祈りしておられるそうで、本当にお気の毒に思いました。こういうガ（そ）お救いいただかねばと思い、神様のお話をさせていただきました。

福田さんの一番近くの隣者さん（中田さん）を紹介させていただきました。御浄霊をお取り次ぎさせていただく中田さんも、御浄霊をいただく福田さんも、このような難病を神様は約

月ぐらいになりますが、弟さんのものが見えるようになってこられました。この長年の難病にもいとも簡単に御守護いただかれました。もしも

明主様のお救いをいただかれなかったら、生涯を暗く苦しい毎日に終わったのではないかと思いますと、少しお話をさせていただいただけで、こんな程素晴しい明るい人生に変えていただかれることの余りにも絶大なる尊い御神恵に感涙したのであります。（福田様のおかげ話は四頁に掲載）

もう一人の方は昨年十二月十八日、私は世話人反省会に出席させていただくため鶴巻に行きました所のことでございます。

ひざが大変はれて、なまなましい打撲の跡形の一杯ある方がおられまして、思わず目を背けさせていただきました。その方は二年程前から、リューマチのようになり、いろいろと医療を受けられましたそうですが、だんだん悪化してゆくので、お話を勧められ、一気持のせいか、少し良くなったように思う」などとの話をお聞いたり、また私の方は神様のお話をさせていただいたりしていました。私もこれ以上お話が長引いて反省会に遅刻してはならないと思い、お先に失礼しました。

明主様本当に有難うございました。今年は、旧に倍して御神業の一翼にお使いいただけますようにお願い申し上げます。

暗かった少年期　御浄霊で輝く青春

腎臓病にお救い

長い「体育授業見学」も夢

倉見　清

今から四年程前、ちょうどぼくが中学一年生の十月ごろ、学校で検査が実施されました。その結果、尿中にタンパクが多量に降りているといわれ、再度検査を受けましたが、やはりタンパクが多量に降りているのです。それで、学校の保健部から呼ばれ、ある国立の

大きな病院に診察の依頼をされました。病院でお察の結果、起立性蛋白尿（一種の腎臓病）といわれ、また検査の結果も思わしくなく、検査に時間を手間がかかるだけ、とうとう入院を申し渡されました。その間、足がかゆくて出し、足の指が真っ赤になり、絶えずかいて、とても辛抱続けるとおさまらなくなり、イスにへばりついて過しました。それほど、ぼくにとって入院という言葉は大ヘんショックでした。今日まで、重い病気にかかったり、寝込んだこともなく、健康な体だと思っていたからです。

一カ月入院し退院しました。よくなったので退院したのではなくて、検査が終わったので退院しただけで、結果は入院する前と全然変化はなかったのです。自分では、体はどこも痛くもかゆくもありませんでした。退院後も、医師から絶対安静にし、食事療法を守り、十分睡眠を取るように申し渡されました。こうなると、運動は通学時の徒歩だけに限り、食事は塩分を含んだもの、香辛料や刺激物など、いっさい避けなければならないのです。

それから退院一カ月後、家からボケを出し、入院三カ月前はぼくの右手首骨折と変なことが続いて起こり、ついていないなと思いながら一年が過ぎ、昭和四十九年の正月を迎えて、「今年こそ……」と願っていた矢先に、父が十二指腸潰瘍で倒れ、入院するという大へん悲惨な状態になりました。

ぼくは本当に家族全体が不運というのか、不幸というのか、苦しみのドン底へ突き落とされたような、絶望的な境遇に陥ったのでした。何とかしてこのなかから外へ出ようとしても、ぼくには何もできず、ただ悲惨な状態をじっと見つめ、かみしめているだけでした。父は一カ月早入院し、退院しました。やっと苦しみのドン底からはい出し、幾分家の中も落ち着き始めました。でも、ぼくの心は言葉がかかったようにすっきりせず、腎臓病のことで頭がいっぱいで、毎日そのことについて考えて頭から離れることはありませんでした。糖尿の結果はひどいもので、全身の力が抜けてしまうようでいました。

体育の授業はずっと見学でも、みんなのなかに入っていっしょにしたいという気持ちは、毎時間変わりませんでした。そして、病院からもらった薬や、ある人から教えてもらった漢方薬などを飲んでみましたが、いっこうによくなる気配はありませんでした。医師からも、この病気は一生治らないから自分の将来のことについてよく考えるようになどといわれ、本当になんともいえない絶望感を感じました。

このような状態が毎日のように続いていたころ、今年（昭和五十一年）の二月に、伊吹君と出合いました。伊吹君とは体育の授業が同じで、この日は二人とも見学だったので、いろいろな話をしているうちに、御浄霊の話、教会の話などを聞き出した。不思議だと思いながらも、その時は現代医学の力を信じていて、医学でも治らない病気が、御浄霊によってどうして治るのかと疑っていてどうしたらいいのかと思いました。

このようなことがあってから通勤すること差許され、少しずつ体育の授業を受け始めました。その際、鉄棒で両足のつけ根を打ちました。さっそく御浄霊をいただきました。両足つけ根の関節のところに痛みが続きこれは今日までの体内にいろいろたまっていた毒が消えてくるのだと教えていただきました。その痛みも毎日御浄霊をいただくたびに消えてしまいました。

また、両足に御浄霊をいただいた時、足が熱くなるのを感じ、ただ驚きの一言にたえませんでした。体全身に何だか勇気と自信が込み上げ、毎日がとても楽しくなっていくのを感じました。

入信、この感激

父に友に　わかりたい

こうしたなかで、六月六日の会長先生の御浄霊日に教会御参拝の御許しをいただきました。会長先生から御浄霊をいただき、「大船に乗ったような」安心感を感じました。教会の人たちからも親切にしていただき、大へんよいところだなあと思いました。その後も、機度か教会御参拝や御用の御許しをいただきました。

七月四日には入信の御許しをいただき、そのときの感激は一生忘れることができません。入信し御守り様をいただいたその夜、さっそく父に御浄霊させていただきました。父は十二指腸潰瘍で入院し、退院後も多くの薬を飲み、また絶対に動脈硬化の傾向が少し現われてきたので、近くの医院からも、「入院しなさい」と言われていました。

ただき、そのときの感激は一生忘れることができません。入信し御守り様をいただいたその夜、さっそく父に御浄霊させていただきました。父は十二指腸潰瘍で入院し、退院後も多くの薬を飲み、また絶対に動脈硬化の傾向が少し現われてきたので、近くの医院からも、「入院しなさい」と言われていました。

明主様の御教えにあるように、病は反対に体を清めるといわれていることがだんだんわかってきたので、あまりうまく説明できなかったけれども、薬を飲むことをやめてもらい、御浄霊をいただくように話しました。父にはあまり御浄霊や教会などの話はしていませんが、何もいわず御浄霊をいただくために座ってくれた時は大感謝しく思いました。これからは、御浄霊を受けていただくときに少しずついろいろな話をしていきたいと思います。

父に二日もはく

明主様の尊い御守護をいただけるようになればよいと思います。

また数日後、クラスメートの岡水君が慢性腎臓炎で毎日のように通院し腹痛に苦しんでいることを知り、御浄霊の話をさせていただきたいといわれ、ぜひとも紹介していただきました。

紹介し御浄霊をいただかれました。続けて御浄霊をいただかれているうちに、頭痛が晩分ひらきぎ頭痛もあまりしなくなってきたようでした。でも最近、学校のクラブが忙しいようで、御浄霊をいただかれなくなりました。しかしのちのちまた、なにかの理由で御浄霊をきさせていただき、教会へ御参拝の御許しをいただかれたらよいと思います。

このように、毎日腎臓病のことしか考えなかった絶望感や不安感を取りいただき、御浄霊で体を軽くしてくださった

明主様、本当にありがとうございました。これから、いろいろな方面で困っておられる人たちを、自分が

明主様から御守護をいただいてこんなにもよくしていただいたことを忘れないで、世のため人のため、

明主様の御力を頂きまなお伝えさせていただいて御恩にたちたいと思います。それでなおいろいろな苦難をしたり、行き届かないこともあることと思いますけれども、みなさんどうかよろしくお願いします。

明主様本当に有難うございました。そしてほんとうにお導きくださいましたみなさん、どうもありがとうございました。

昭和五十一年八月二日

（前腎臓病での体験発表）

おかげ話

見える！見える！

きのうは隣が…きょうは五階のアンテナが…

手術二度 医療尽くし 失明寸前 救われて

福田　広子

私は小さい時から眼が悪く、トラホームだといわれ色々手当をしてもらっておりましたが、治らず、そのままの状態で過ごして来ました。三十一年から病院に勤めましたので毎日洗ってもらい、欠かさず眼薬をさしておりました。三十五年ごろから段々と眼が見えなくなって来まして、三十七年に慶仁角膜と診断され、大阪国立病院で手術を受けました。手術の直後は少し見えるようになりましたが、まだまだ見えなくなりました。医者のいわれるには「これは角膜はこない、再生しますがまたその時に手術をしなければいけない」ということで三十九年に二度目の手術をしました。けれども悪いの手術の時程はよく見えませんでした。

なぜこの子供の時からの悪いなのでは、医療でも治らないと聞いて、すっかり諦め切っておりました。四十一年には頼りにしていた主人にも先き立たれ、全く神様にも仏様にも見放されたように思っていました。

翌年四十二年に豊中の病院で、どうなるか分らないが眼を開く手術をすれば少しはよくなるかも分らないといわれ、ワラをもつかむ思いで手術をしましたが、結局効果はなく、ただ明るさだけが薄ぼんやり見える程度で、失明寸前の状態に苦しい毎日を過しておりました。

そんなある日のこと、五十一年三月の中旬ごろだと思いますが、偶然にも電車の中で御親入の方（谷先生）に声をかけられ、色々宗教のお話をして下さいましたが、私はお医者さんからでは大阪市教所は遠いから、一番近くの中田さんというのお宅へ行ってようと紹介して下さいました。

初めて行く道でしたので、随手をひいてもらい、一人でもけがをしないように教えてもらはなければなりません。幸なことに三月二十一日は祭日で学校が休みでしなって来ました。先生にお願いしますと、それは浄化作用がおきて来ているので、却ってよくなるための状態だから心配しなくてもいいといいましたが、私は歩くのが恐わくてたまりませんでした。

そのうえ兄からは万一交通事故にでもあったらどうするといって反対されますが、私はいま思い切ってやってみようと思いました。草刈りぐらいならさせていただけると思い、月に二回程無理をしたのは（広野）の御祭礼にやらせていただけるように神様にお願いさせていただきました。

奉仕二回目、足元の池にびっくり

始めて行ったのは六月十三日で、その時は看護さんの浜田さんに手を引かれて大きなため池が側にあるのも知らず通っておりましたが、二回目の時大きな池があるのが見えてびっくりいたしました。三回目の御奉仕の時には田んぼから五十メートルぐらい離れた所の家が見えたのでございます。何時もお水をもらいに行く所だそうですが、いままで全く見えなかったのがはっきり見えていただきました。それまで自分の家の周囲の状態も全くわからず、ただ梅と手さぐりで目を通っておりましたが、今日このごろは付近の様子が相当遠い所迄見えて、五階建の上のテレビのアンテナも神のようすからとおっしゃっていただきましたので、入信のおおしをいただきました。

また私は永年の便秘症でしたが、それもずっから治っていただきました。反対に眼の方が悪くなって来たような感じがしまして、かすかなあかりが二重にだぶって見えたり、道の端調を歩いているつもりが真中を歩いていたり、とても不安な状態になって来ました。先生にお願いしますと、それは浄化作用がおきて来ているので、却ってよくなるための状態だから心配しなくてもいいといいましたが、私は歩くのが恐わくてたまりませんでした。

そのうえ兄からは万一交通事故にでもあったらどうするといって反対されますが、私はいま思い切ってやってみようと思いました。

最初御浄霊をいただくようになった時は、せめてこれ以上悪くはならずに済むものならという気持ちでございました。水年の眼病が短期間でこんなによくしていただけるとは夢にも思えず、神様の偉大なる御力にただただ感謝の心で一杯でございます。

今後は神様の御手足としてお使いいただけますよう、ひたすらお祈り申し上げております。そうして私のような無性な眼病に悩み苦しんでおられる方も多いと存じますが、一人でも多くの方にお話しをさせていただき、

明主様の御救いの御恵みをお伝えさせていただきたいと思っております。

明主様本当に有難とうございました。

車中、声かけられ

入信、奉仕　甦える明るい日

浄霊のお取り次きをして下さいました。

また私は永年の便秘症でしたが、それもずっから治っていただきました。反対に眼の方が悪くなって来たような感じがしまして、かすかなあかりが二重にだぶって見えたり、道の端調を歩いているつもりが真中を歩いていたり、とても不安な状態になって来ました。先生にお願いしますと、それは浄化作用がおきて来ているので、却ってよくなるための状態だから心配しなくてもいいといいましたが、私は歩くのが恐わくてたまりませんでした。

そのうえ兄からは万一交通事故にでもあったらどうするといって反対されますが、私はいま思い切ってやってみようと思いました。

最初御浄霊をいただくようになった時は、せめてこれ以上悪くはならずに済むものならという気持ちでございました。水年の眼病が短期間でこんなによくしていただけるとは夢にも思えず、神様の偉大なる御力にただただ感謝の心で一杯でございます。

今後は神様の御手足としてお使いいただけますよう、ひたすらお祈り申し上げております。そうして私のような無性な眼病に悩み苦しんでおられる方も多いと存じますが、一人でも多くの方にお話しをさせていただき、

明主様の御救いの御恵みをお伝えさせていただきたいと思っております。

明主様本当に有難とうございました。

おかげ話

はねられ頭強打、吐瀉する重症

お浄霊で翌日は登校

小学生の長男にお守護頂く　磨田　淳子

私が入信させていただきました動機は、母が肝臓をわずらっておりまして医者からも見離された状態でした。母が知り合いの方よりうをもつかむ思いで、昭和二十六年四月に入信の御許しをいただきました。そして私が翌年八月に入信させていただきました。母の病気もよくしていただき、今日まで数多くの御守護をいただいて、明主様に感謝の日々を過ごさせていただいて参りました。

いろいろな御守護の中で、医師も驚いた三年の長男の昌彦がいただきました御守護の御報告をさせていただきます。七月九日のことです。学校の友達と二人で自転車に乗り、友達の所へ遊びに出かけました。三酒過ぎに一緒に出かけた友達と、一人の見知らぬ青年が私宅へ来まいりまして、昌彦君が自転車によっかかりをしたので病院へ連れて行きました。と言ってその時の状態を話して下さいました。私達の自転車が交差点を曲ろうとした時、その後方に自転車に乗っていた自転車がぶつかって、その拍子に自転車から投げ飛ばされて脳部のコンクリートで頭をぶっつけたということです。お互いに信号無視ではなかったようでございますが、車を運転していたはその青年のお母さんで、どこの病院へ行ったか判らないけど、先ずこちらへお知らせにきたのですとのことです。私もどこへ行ってよいか判らず、近くの病院三軒に電話をしたのですが、その様な方はそこの

奇蹟！賢臓結石 御浄霊3日で治して頂いて

柏木　巌太

明主様、数々の御守護を賜り誠に有難うございます。

この度人間のお許しを願りました感謝を御報告させていただきます。

人の一生において忘れ得ぬ日があるとすれば、私にとってその日とは昭和五十一年八月二十二日でございます。

それはちょうど一カ月前の、七月二十二日の午前二時三十分ころと思いますが、私は激しい腹痛で眠りを破られました。その痛みは到底言葉で表現出来ぬ程の激痛でありました。左腹部、左腰部、そして腹部は無論して、背は背打ち、各部の痛みは時間と共に増して来ました。その長い地獄の責め苦の唸が響き渡けて、私は待ち兼ねる思いで近所の医者の診断を受けました。

その結果、腎臓結石と診断されたのです。発病以来四日目、七月二十六日、あまりの痛さに、手術する以外にないと覚悟を決めました。だがその時「フッと」思い出したのは、メシヤ教に入信させていたいている妹のことでした。医者も誰も絶ほど病気が治していたけると、常に言っていた妹のことです。私の手は同のためらいも無く妹の家の電話番号を回していました。電話口に出た妹は私の話を聞いて「お兄さん心配しないできっと良くなりますよ、これから私はお世話人様のところの神様にお祈りさせていただきますから、お兄さんも お祈りして下さい。

明主様お願いいたします と言ってね」と、電話は切れました。それからのくらいたちましたこと か、あれ四日間も病んでいた苦しみが大分楽のいてきたのです。「アッ!よかった」妹が神様に お祈りに行って貰れたのだと思い安心の大い息を二つ大きくつきました。苦痛が去りつつあった時の私の心の中は地獄から天に登ったようなことなのだと、何も知らない

「明主様」に心の底から御礼のお祈りをしました。

御教え通り砂状で排出

激痛も妹の祈りで消える

それから妹に誘われて、眼鏡支部へ御浄霊をいただきに行きました。

たのが翌日二十七日のことでございました。ちょうどその時支部長先生に お会い出来て、嬉々の話の模、先生は

「明主様の御教えの中に「石は分解され、砂の如くなって、尿と共に排泄されるので」と仰せられていたのです。そのうちに結石が砂の様に細かくなって出していただけるようになりますよ」と教えて下さいました。私は何だかよく解りませんでしたが、手術をしないでいるようなものが出るものかのかな—と思っていましたら、すかさず先生は「お経いになるのも無理はありません、神様の御力は人間には想像出来ない偉大な力言われましたので、こちらのお腹の中まで見通された思いでした。妹も自信たっぷりの顔付きでうなずいていましたので「ハア/ハア/」と笑いでつくろい、なにとぞよろしくとお別れしました。

御浄霊をいただき始めて二日目の夜、私は近年にない物すごい大汗をかいたのです。三日目早朝、支部に参拝させていただきお話したしましたら一大袋よかったですね」と言われ、これが浄化と言うものであると教えていただきました。恐縮なお話になりますが、程なくトイレに行き用を足した時、便器の中に灰色の線な異味を持った奇妙な砂状の物が目に入りました「アア!これだ」と結石の粉かもしれない」きっと結石が砂状になって出ると聞かれたのはこの事かなーと思い驚いてよいのか、喜んでよいのかちょっと迷いました。先生に言われた「砂の様になって出ますよ」と言われたことが何度も頭の中に出ては消え、消えては出て来るのです。私の心の中は乱れなく、事実現状では信じられるような、また信じられないような複雑な感情が私を支配していたのは確かでした。

あの日、七月二十六日に妹に電話した時、妹はお世話人様の高塚様の御神前へお祈りに行って貰れたと、そして今日はまだ言われたように苦痛となって貰れた事など考える時、もしも本当に結石が砂状になって砕けて出たとしたら一体全体どちらの神様とほどの様な神様なのだろうか、かつて他に聞かされたこともない、結石から救われた。助けていただけたのだろうか、夢でなくてほしいと、種々様々な事柄が頭に浮い来ました。支部の方々は協力をうそうそ、「そのうち、早かったねー」と我が事のように喜んで貰れました。私も何だか他人事でないという実感がわき、うれしくなって「不思議な神様であると」思いました。神様とはそれ程素晴しい嬉しいものなのかなーとただただ驚きました。

明主様に感謝を申し上げさせていただきました。常々妹の口から聞かされていたが「成程々々そうか、そう言うものか」と通りいっぺんでない迄でも、話を聞きの上手ですこしていた私共にこの度の一つがどんなにか私の心を百八十度に転換させたことかを御想像ください。霧の中におかれたような半信半疑の気持ちも去ったのは次きの二つの出来事が相い次いで起こったからであります。

その一つは、私は以前より鼻詰まり状態でありましたが、八月四日頃みを感じると共に長年の鼻詰りが不思議にも通るようになったのです。

その二は、今から十七、八年前より私は両眼の白内障の中に別物の固まりのような丸い凝りが出来て手術により取ったことがあったのですが、何年か後再び小粒の固まりがまた出来て、押すと妙に痛く、時には不快に思うこともありましたが、八月七日、ふから毎朝目脂がかなり出ました。八月十六日の夕方、眼に痛みを感じましたが、その晩は変な気持ちで寝たのですが、翌朝ふと目に手をやりますと、小豆程の固まりが不思議にも消えて無いのです。次き次きとこんな素晴らしい奇蹟と言うものがあるのだろうか、しかし事実なのです。まったく有難いやらで言葉も有りません。眼かゆ一か月足らない間の思いも寄らぬ奇蹟は、未信者の私にも大きなお恵みの連続をいただいたのです。

私は以上の数々のおかげ体験を通して、

明主様の御力の偉大なことをじかに解らせていただき、感謝たえない次第でございます。

折しも八月二十一、二日、御教修をいただき身に余る光栄の様い御守護を拝受させていただきました。誠に有難うございました。

この日、ふと私に取って忘れ得ぬ日であります。一生に一度の晴れの日、輝しいお力を授けられました佳き日でございました。その後母や姉にも次き次きとお許しをいただきまして一家一門大喜びでございます。御恩に報ゆる力もない私ですが少しなりとも

明主様の御道具の一端に加えさせていただきたく存じて おります。一人でも多くの方に様い「御教え」や「御浄霊」をお取り次きさせていただけますように御祈願申し上げます。

明主様誠に有難うございました。深く御礼申し上げます。

おかげ話

元気に歩けた三人の喜び

ツエにすがり「く」の字の身 薬、苦痛なしの日々

座骨神経痛救われた

大槻　鶴蔵

この度、膝がはれるこ浄化に御守護賜りましたことを、御報告させていただきます。

私は北陸線敦賀より一時間程先の武生市に住んでいるものです。古い話になりますが、二年代のこ ろ病後一カ月ほどから急に高熱が出て、一晩の内に関節炎にかかり、歩くことも出来ず、勿論手も動かせぬ程の苦しみ、三カ月程寝込んだことがありました。その後三年程してから、また関節炎にかかり、その折は家事が忙しかったので、松葉ツエをつきながら歩いておりましたが、一カ月程で治りました。

というのは、主人が医者でしたので、直ぐに注射、治療が受けられたということでしょうか。

何年か過ぎた時、ふと右足の裏面にこぶが出来ているのに気がつきました。

今年四月の七日、ある会合で、一泊旅行に出かけました。

翌九日ごろから何となく右足で浄霊をいただかれた方がよろしいですよ」とおっしゃっていただき、言われる事に、何かひかれるものを感じ、それから毎日上田様宅の御神前へ御参拝させていただきました。

一日一日と歩くのが楽になり、食事もおいしいといただけるようになってまいり、御浄霊をいただき はじめてから十日程で「く」の字になっていたのが、次の日から歩くことが不自由になり、関所へ行くのにも人の手を借りなければならなくなりました。十一日の昼ごろから、右足の関節がボンボンと腫れ上り、熱もし、自分で御浄霊をさせていただきました。ゆいにも世話人の丸山様が、私宅よりさほど遠くない所に転宅して来られましたので、姉が丸山様に お願いしてくれました。

早速御浄霊に来て下さいました。

「お祈り様で大分楽みも出て来ているようなものが出るものかなー」と思っていましたら、すかさず先生は「お経いになるのも無理はありません、神様の御力は人間には想像出来ない偉大な力言われましたので、こちらのお腹の中まで見通された思いでした。妹も自信たっぷりの顔付きでうなずいていましたので「ハア/ハア/」と笑いでつくろい、なにとぞよろしくとお別れしました。

御浄霊をいただき始めて二日目の夜、私は近年にない物すごい大汗をかいたのです。三日目早朝、支部に参拝させていただきお話したしましたら一大袋よかったですね」と言われ、これが浄化と言うものであると教えていただきました。恐縮なお話になりますが、程なくトイレに行き用を足した時、便器の中に灰色の線な異味を持った奇妙な砂状の物が目に入りました「アア!これだ」「結石の粉かもしれない」きっと結石が砂状になって出ると聞かれたのはこの事かなー と思い驚いてよいのか、喜んでよいのかちょっと迷いました。先生に言われた「砂の様になって出ますよ」と言われたことが何度も頭の中に出ては消え、消えては出て来るのです。私の心の中は乱れなく、事実現状では信じられるような、また信じられないような複雑な感情が私を支配していたのは確かでした。

あの日、七月二十六日に妹に電話した時、妹はお世話人様の高塚様の御神前へお祈りに行って貰れたと、そして今日はまだ言われたように苦痛となって貰れた事など考える時、もしも本当に結石が砂状になって砕けて出たとしたら一体全体どちらの神様とほどの様な神様なのだろうか、かつて他に聞かされたこともない、結石から救われた。助けていただけたのだろうか、夢でなくてほしいと、種々様々な事柄が頭に浮い来ました。支部の方々は協力をうそうそ、「そのうち、早かったねー」と我が事のように喜んで貰れました。私も何だか他人事でないという実感がわき、うれしくなって「不思議な神様であると」思いました。神様とはそれ程素晴しい嬉しいものかなーとただただ驚きました。

明主様に感謝を申し上げさせていました。早速

明主様に感謝を申し上げさせて いました。

はれ上がったひざ 10日で元通り

20代の治験のあと結束

瓜生　サタ

私は三年程前に、関西におり来ました。

早速御浄霊に来て下さい ました。

「お祈り様で大分楽みも出て来ている様子なので、水を飲かねばな らないのではないかと思いつつ、早速姉のところへ電話を入れました。姉から

明主様の尊い お姿を思い浮かべ、御浄霊をいただくようにと言われ

明主様に、先ず自分の罪深いことをお詫びし、御守護の御願いをさせていただきまして、お祈りをしました。

十四日の夜に腫が消えていまして、何回も浄霊をいただきました。

翌日、右足がボンボンと腫れ、熱が出てきました。

十五日の夜に腫が消えていまして、何とか用を足すことが出来ておりましたが、十三日には、左足が大きく腫れ、熱も出てきましたが、「ずきん、ずきん」と痛みを感じて来ましたが、

明主様の御守護により、こんなに早く歩くことが出来るようになりました。

明主様 ありがとうございました。その後三日間程夜寝昇がひどく出来ましたが、家の用事もすることができ、また一時間半ばかり離れた丸山様宅まで、御浄霊をいただきにいくこともできました。

そして、四月二十六日の会長先生の御浄霊日にもご参拝させていただきました。

入信後何んのご用も出来ていない私共に、この度は十日程で歩けるようにさせていただきましたことを厚くお礼申し上げます。この喜びを多くの方々に、お伝えさせていただきたいと 念じております。

明主様有難がとうございました。

〝骨折〟短時日で完治

御恩報じの大切さしみじみ

中田　康夫

九月二十八日午後五時ごろ学校のクラブでサッカーの練習中、僕がボールを持っていると横から来た人がボールをとろうとして足を出した時、相手の人の足と僕の右の足首付近がぶつかり「ピシッ」と言う何かが破れるような音と同時に激しい痛みが、足首に走り、そのままグランドに倒れました。

先日いただきました御守護の御報告をさせていただきます。

明主様にただただ感謝の毎日でございます。これからは他の人々に

立つことはもちろん、起き上がることもできずにいると暫間の先生がこられて、くつを脱がせ、足を触りながら「ここは痛いか、ここはどうか」など聞き、それに答えると「これは接骨だろう」と言われます。倒れる時間がしたので骨折かなと思っていたので安心はしたものの痛みの厳しいこと、今にも大声を出しそうなのを我慢していると、先生が濡れタオルで足首を冷やし、他の先生と「病院へ連れて行こうか」と話しておられます。

これはえらいことになった、病院なんか連れていかれたら何をされるかわからない。困ったなあと思っていると、

明主様にお願いすればなんとかして下さるのではーということが脳に浮んできましたので、心の中で、

「明主様、明主様」と念じておりますと、先生は「今から病院へ行っても何もしてくれないだろうと言い、足首に湿布だけ巻いて車で家まで送って下さいました。

本当なら、いろいろと治療をされているところなのに、これも明主様が助けて下さったのだと思い、感謝しております。

その日は、ちょうど青年会の人達が教会で講用をさせていただかれる日だったのですが、明用はさせていただけず、御浄霊だけいただいて帰りました。この時、右足をつくことはできましたが、歩くことはまだできません。身体を動かすのはちょっと動くのがやっとでした。

足首はそれほど、腫れずに自分の足だとは思えない程でしたが、教会へ毎日、御浄霊をいただきに お参りさせていただきました。ものすごくよくなっていた足首付近が一日一日と引いて行くのがわかりました。

教会に半月ぐらい通らせていただき、明主様の御力と御浄霊の有難さを お伝えさせていただき、一人でも多くの病気で苦しんでおられる方を助けさせていただきたいと思っております。

明主様有難とうございました。

以下6面上段へ続く

おかげ話

神に目覚め、母89歳

明主様の御力に感謝

上田　重作

5面、中田東夫様の続き

だいて御神書を拝読させていただき、また家でも拝読を続けようと思いました。

母と共に教会へ御伽噺をいただきに参拝させていたいて三日目、御伽噺をいただいたかと、母のいる病院へ行こうと途中まで、はっていったのですが、何だか歩けるような気がしたので、ちっと試すつもりでゆっくり立ち上り右足で踏ん張って左足を前に、こんどは右足を前に出しましたが、歩けるではありませんか、まだ足首は、はれているものの三日目でもう歩くことができる程、身くしていただきまして、あらためて

明主様の御教いの有難さ、感謝の気持ちをさせていただきます。

母と共に教会へ御伽噺をいただきに参拝させていたいて三日目、御伽噺をいただいたかと、母のいる病院へ行こうと途中まで、はっていったのですが、何だか歩けるような気がしたので、ちっと試すつもりでゆっくり立ち上り右足で踏ん張って左足を前に、こんどは右足を前に出しましたが、歩けるではありませんか、まだ足首

その後ってみますと、七月中ごろにお足太ももが肉離れして、その時も大足ひどい状態でしたのを御伽噺によって短期間で本当によくしていただきました。

こういう大きな御守護をいただいたにもかかわらず、すぐその後に頼まれた御用学生講成会には、どうしてもクラブを離ることができず、参加させていただけませんでした。

足がよくならなければ、とてもクラブどころではなかったのに、本当に

明主様に申し訳なかったと思っております。ころして二回も大きな御守護をいただいたと、そしてあの立ち時のうれしさをいつまでも忘れないで、これからはもっともっと御用に励ませていただいて、苦しんでいる友達にも

明主様のお救いを知らせなければと思っております。

明主様、本当にありがとうございました。

だいてからと思い、教会へ御参拝させていただき、帰りに寄りまして、お参りだけでお水はもらわずに帰り、母にいってきたことだけ伝えましたところ、お水をもらってきてくれなかったと怒りますので、次回に行ってもらい